

令和4年度 第1回学校運営協議会

2022（令和4）年6月25日

於 府立香里丘高校会議室

【構成メンバー-出欠：（協議会委員）】 (以下、敬称略)

山田 亨、桑原 武志、乾 敏美、片岡 佳林、本房 達哉（欠席）、本田 かおり（欠席）

=出席4名

【構成メンバー-出欠：（事務局「学校側」）】

宮内 順(校長)、服部 有晋(教頭、欠席)、北井 法由(事務長)、坂橋 徹(首席教諭・進路指導主事)

松下 真二(首席教諭・総務部長)、冢瀬 克徳(教務主任)、岡田 泰典(生徒指導主事)

細見 太郎(保健指導主事)、横山 栄(書記) =出席8名

1. 校長挨拶
2. 協議会委員の紹介
3. 事務局（学校側）の紹介
4. 協議会会長の選出
会長：山田亨、副会長：乾敏美
5. 会長挨拶
6. 協議項目【司会：会長】（発言者「委」：協議会委員、「学」：事務局（学校側））

① 令和3年度学校評価、令和4年度学校経営計画について

学：令和3年度学校教育自己診断などから説明

- ・全体の傾向は前年度から変わっていないが、授業力向上のための取り組みが滞っているように感じる教員が増えている。コロナ対応と多忙のためとみられ、今後の課題となっている。
- ・生徒指導について、生徒と保護者双方から「方針に納得できる」と高い評価をいただいた。
- ・地域交流は、新型コロナ感染症のため実施が難しかったものが多かったが、今年度は再開されるものが増えると考え、充実させていきたい。

学：令和4年度学校経営計画から説明

- ・今春入学の43期生から始まった観点別評価は、昨年度の試行などを参考に各教科で研究を進めている。新たな評価項目「思考・判断・表現力」「主体性」はどこを見て、どのように判断し、納得感のある評価にするか。評価をどう生徒の学習意欲向上につなげるか。学校として取り組みを進めていきたい。
- ・ICT環境の整備速度を上げたい。具体的には、まず来春までに全ホームルームにプロジェクターの整備を行うべく、計画を進めている。
- ・生徒数が減り、教職員の数も大きく減る中、働き方改革は急務だと考えている。業務削減、ICTの利用などを、スピード感を持って進めていきたい。

- ・43期生（1年生）からアドバンスクラスが始まる。国公立大や、難関私大をめざす生徒を選択科目によりクラス分けするもので、1、2年次から3年次にどのようにつなげていくかが課題となっている。現在、1年生の希望者をグループ化して模試を受けさせたりするなど、取り組みを始めている。
- また、42期生（2年生）も、個に応じた指導の充実をめざし、同様の希望者グループをつくって活動を始めている。

意見・質疑

- 委：観点別評価は、大阪の保護者にはまだまだ浸透していないのが実状。「子どもに身につけさせたい力」を明確にするためにも有用だが、評価する側（教員）には大きな負担がある。
- 委：ICT環境の整備は、府教委に責任があるのではないか。しっかり整備するよう伝えてほしい。
- 委Q：部活動指導に尽力されている先生方がいらっしゃるのはありがたいが、働き方改革はどうなっているのか。
- 学A：外部の指導者を活用するなどして、教員の負担削減を図っている。今年度は指導だけではなく、引率などもできる「部活動指導員」を2人お願いできるよう予算をつけてもらっている。
- 委Q：学校説明会などの広報活動は、コロナ禍で様々な制限があると思うが、どのように取り組んでいるのか。ホームページに学校説明をアップしたりしているのか。
- 学A：今年度は対面での説明会も戻ってきており、人数制限や消毒などで対応している。また、ホームページにはバーチャル学校ツアーと、学校説明をアップしている。

②学：令和3年度進路指導報告

- ・国公立大1名(既卒)、私立大延べ603名。
- 現役の国公立大合格者が4年ぶりゼロになった。ただ力がなかったわけではなく、妥協せず挑戦した結果。その生徒は、今年度の合格をめざしている。また、早く決めたいという生徒が増え、浪人が少なかった。

③学：その他

- ・学校の存在意義や役割、めざす学校像を定義する「スクール・ミッション」の策定に取り掛かる。次回の協議会で意見を頂戴することになる。
- ・コロナ対策としてトイレの洋式化が計5カ所できることになった。うち2カ所は、洋式が1据えもついでいない1階・4階中央（エレベーター横）。残り3カ所は検討中。

7. 校長謝辞

以上